

第 1 3 回生コン技術大会 論文発表申込書（記載例）

| | | | | | |
|--|----------------------------|----------------------------|----------------|----------------|---|
| 発表の区分 1 | 特定課題研究論文 3. 日常業務の改善事例等 | 2. 一般研究論文 4. 調査報告 | | | |
| 発表題目名 | 高周波加熱装置による単位水量迅速推定の取組みについて | | | | |
| 著者（5名まで） 2 | | 所属工業組合名 | | | |
| 氏名 | ふりがな | 所属グループ名 （協組・試験場・企業・学校等） | | | |
| 日本 一郎 | にほん いちろう | ××生コンクリート共同試験場 | | | |
| 世界 国征 | せかい くにゆき | 同上 | | | |
| 宇宙 広志 | うちゅう ひろし | 同上 | | | |
| 全生 太郎 | ぜんなま たろう | 同上 | | | |
| 認定 取太 | にんてい とうた | 同上 | | | |
| 発表論文の概要 | | | | | |
| 1. 目的（100～200字程度） 構造物の耐久性確保という見地から、単位水量は重要な因子であり、近年この迅速推定を行うケースが多くなっている。推定には各地区で複数の方法が試みられているが、著者らは容易に使用でき、測定時間も比較的短くて可能な高周波加熱法を対象とし、推定精度を向上させるためのデータ収集を行ってきた。今回の発表は要因として次の影響を調査した結果を報告する。 細骨材の吸水率 ウェットスクリングの方法・条件、 コンクリートの練り上がりから試料採取までの経過時間 以上 | | | | | |
| 2. 内容（300字程度） 細骨材吸水率 吸水率の異なる細骨材を4水準とり、同一試験者による繰り返し誤差、試験者3名による個人誤差、吸水率と乾燥時間所要時間、乾燥中の細骨材表面温度との関係を調査した。その結果から、単位水量の推定値に及ぼす影響と細骨材吸水率の試験方法の採択性について論じた。 ウェットスクリングの方法・条件 使用粗骨材を2水準(砂利と碎石)、ふるい分け方法を2水準(手動と振動機使用)、ふるい分け時間を4水準とり、繰り返し誤差、個人誤差ならびにウェットスクリング前後の配合の差を求め、付着等で回収不可能な配合の量と単位水量推定値に及ぼす影響を調べた。 コンクリートの練り上がりから試料採取までの経過時間 単位配合量3水準、経過時間4水準とし、単位水量配合値に対する推定値の傾向を調べた。 以上 | | | | | |
| 3. 結論 3（100～200字程度） 吸水率試験方法に対し、JIS A 1109 と高周波加熱法を比較した結果、明らかに差があり、考察から後者を採用すべきと判断される。 ウェットスクリングにおいては、振動機を用いた方が、配合値に近い推定値が得られること、粗骨材の表面形状により差が生じること、ふるい網や容器に付着し回収できない配合が誤差要因となっていることがわかった。 コンクリートの練り上がりから試料採取までの経過時間による影響は、時間経過に伴い推定値が小となる傾向がみられたが、これらは配合の水和との関連を含めて再調査する必要がある。 以上 | | | | | |
| | 氏名 | 所属連絡先名 5 | TEL 番号 | FAX 番号 | 備考（要連絡事項 何でも） |
| 申込者 4 | 東亜 豊 | 地区生コンクリート協同組合 | (00) 1234-5678 | (00) 1234-5679 | 発表予定者が論文作成者となる見込み。論文に関する全面的な問い合わせは日本一郎までお願いいたします。 |
| 発表予定者 | 日本 一郎 | ××生コンクリート共同試験場 | (00) 8765-4321 | (00) 9765-4321 | |

- 1) 発表の区分は1～4該当する番号に をつけること
- 2) 著者3名のうちで発表者が決定している場合は氏名欄の前に をつけること
- 3) 結論が出ていない場合は途中経過を記すこと
- 4) 申込者には問合せに対し回答が可能な人名を記入のこと
- 5) 所属連絡先名は主在勤の勤務先名を記入すること